

# 福祉サービス第三者評価 評価結果

## 鳩の森愛の詩あすなる保育園

横浜市泉区新橋町 812-2

運営主体：社会福祉法人 はとの会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5 ページ
分類別評価結果	6～16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17～23 ページ
利用者本人調査分析	24～26 ページ
事業者意見	27～28 ページ

2007年5月2日公表

評価機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

## 実施概要

事業所名	鳩の森愛の詩あすなろ保育園	
報告書作成日	2007年4月25日	評価に要した期間 約5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

## 評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:06年11月中旬～07年2月9日</p>	<p>園長・主任保育士・各クラスリーダーが集まり、他園の事例から勉強会を行った。</p> <p>職員会議で趣旨等を説明した後、常勤・非常勤全ての職員各個人が自己評価票を持ち帰り、記入した。</p> <p>各個人が記入したものを持ち寄り、園長・主任保育士・各クラスリーダーが集まり、意見交換しながら1項目ずつの確認を行った。</p> <p>さらに、常勤・非常勤全ての職員を集めての職員会議を開き、1項目ずつについて事例をあげて確認・合意をし、園長・主任保育士がまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:07年1月20日～2月9日</p>	<p>全園児の保護者（80家族）に対して事業者側から手渡し。</p> <p>各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 07年2月26日 第2日 07年3月6日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前:各クラスにて観察調査 昼食:各クラスにて観察調査(園児と一緒に給食をいただく) 午後:栄養士、各クラスリーダー保育士5名と面接調査。 その後、書類調査及び観察調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:各クラスにて観察調査 昼食:各クラスにて観察調査(園児と一緒に給食をいただく) 午後:非常勤保育士1名と面接調査。その後、理事長・園長・副園長・保育主任と事業者面接調査。その間、適宜観察調査を行った。最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 07年2月26日 第2日 07年3月6日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施。園外への散歩にも同行した。</p> <p>聞き取り調査は、主に年長児を対象として、上記観察調査時及び昼食同席時に、適宜実施した。</p>

## 総合評価（評価結果についての講評）

### 【施設の概要】

鳩の森愛の詩あすなろ保育園は、相鉄線弥生台駅から徒歩約3分の小高い丘の上にあります。鉄筋コンクリート2階建ての園舎からは見晴らしが良く、周りは緑に囲まれています。園庭は木に囲まれ、斜面を利用して、階段・つり橋・登り棒・一本橋等の木製遊具が設置されています。

定員は87名（0～5歳児）で、開園時間は7時から20時までです。

当園は、2002年4月、社会福祉法人はとの会により開設されました。はとの会は、他に、当園から約300m離れた所にある鳩の森愛の詩保育園（はと）と、相鉄線三ツ境駅近辺の鳩の森愛の詩瀬谷保育園（瀬谷）の2つの保育園を運営しています。無認可保育所時代を含めると、約21年の実績となります。

保育の理念は、「共育て共育ち」として、“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うこと”を掲げています。この理念のもと、保育目標として、お互いを認め合う仲間になろう、しなやかな体をつくろう、感性をゆたかにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げています。

### 高く評価できる点

#### 1、子どもたちは、生き生きと園生活を楽しんでます。

子どもたちが思いっきり遊び込む時間が十分に確保されています。近隣に公園や広場が多くあり、行き先は、子どもの発達に応じて決め、さまざまな遊びをして楽しんでいます。月1回の「エンジョイデイ」では、時間割なしでお腹が空くまで自由に遊ぶことができ、昼食も時間に縛られません。また、「お弁当の日」は、給食の代わりにお弁当を持って、かなり遠くの公園等まで行くことができます。

これらの遊びの中では、異年齢の子どもたちの関わり合いを大事にしています。毎朝の幼児組の合唱や散歩を異年齢のクラスで合同にする等の他、「兄弟保育の日」を設け、幼児組は、年齢の枠を超えた縦割りの数グループに分かれて活動しています。

小さい子も大きい子も一緒に育ち合い、お互いを認め合う仲間関係を築くように努めています。

#### 2、職員の研修が充実しています。

年間研修計画を策定しており、法人が運営する他の2保育園（はと、瀬谷）の職員も含めた合同研修を定期的に行っている他、外部の研修会等へも積極的に参加しています。

研修後は、研修報告書や職員会議により職員同士で情報を共有しています。さらに、研修等を受けた感想や、日常の保育にどう活かすか等の各職員の報告を、園だよりに掲載する他、年1回報告書としてまとめ、父母へ配布しています。

一見、保育とは関係が薄いと思われる研修もありますが、参加した職員は、習得したものを、子どもたちの感性を豊かにする保育に活かしています。合唱、荒馬踊り等は、子どもたちにその技術と楽しさを伝えるとともに、職員自身も楽しんでいます。

また、法人3園合同研修としての無言館学習の旅や沖縄平和学習の旅へ参加した職員は、平和の大切さを自らが実感し、子どもたちに、歌やお話しを通じてそれを伝えています。

#### 3、食への関心を大切にしています。

主食は、麦ごはん（胚芽米・麦）、五穀ごはん（胚芽米・五穀）を中心とし、有機栽培等による米や野菜を使用する等、子どもたちの体づくりや健康に配慮した献立となっています。

子どもたちは、有機栽培の野菜を作る現場を見学した保育者から、その話を聞いたり、プランターでさまざまな野菜を栽培したりすることで、作物ができる過程を学んでいます。

配膳については、保育者が保育室内でご飯をよそう等の準備をしますが、子どもたちは年齢に応じて手伝っています。例えば5歳児は、当番がご飯とおかずの盛り付けを行う他、米を砥ぎ、炊飯器で炊くことも行っています。また、木製のお椀・皿・箸や陶器の食器を使用し、本物を大切に使うことを子どもたちは体験しています。

5歳児は、卒園が近づくと、「リクエストメニュー」として、これまでに食べたメニューの中でもう一度食べたいものを、一人ひとりがリクエストできます。その日は「ちゃんの日」として、全園児が同じメニューをいただきます。

これらの経験を通じて、子どもたちが食への関心を持つようにしています。

#### 4、父母との密接な関係が築かれています。

父母の会が結成されており、父母は必ず何らかの委員をし、活発に活動しています。例えば、運動会やバザーは、園と父母の会との共催行事で、それぞれ「運動会実行委員会」「バザー実行委員会」を組織し、計画・実行しています。園だよりの企画・原稿依頼・編集・印刷等は「おたよりプロジェクト」として、職員と父母の会が分担しています。

その他の催しも数多くあり、ウェルカムパーティ（歓迎会）・サマーフェスティバル（夏祭り）・望年会（忘年会）・ダディの会（お父さん懇談会）等は、父母の会が主体で計画し、職員も協力しています。

父母の会役員会には、園長・主任が出席し、さまざまな意見交換をしています。

「共育て共育ち」の理念に沿って、父母と園が協力し、子どもたちが、生き生きと園生活を送ることができるようにしています。

#### 5、子育て支援・地域との交流に力を入れています。

子育て支援として、一時保育・交流保育・園庭開放・育児相談を行っています。地域で子育てをしている親子を対象とした「あそぼう会」は、園庭や近くの公園で月2回実施し、毎回多数の参加者があります。また、法人として、小学生を対象とした「放課後キッズクラブ」(\*)を2カ所運営しています。園児は、キッズクラブや近隣小学校の学童とも交流しています。

地域との交流も盛んです。クリスマス会、おたのしみ会等に地域の方々を招待している他、世代間交流事業「いきいきあすなろ」として、近隣の一人住まいをしているお年寄り等を月2回招待し、年長児と、お正月遊び・お手玉・ボーリング等を行っています。また、近隣の人々が、週3日ボランティアとして訪れ、乳児のお世話をしたり、一緒に遊んだりしています。さらに、子どもたちが、敬老会等の地域のイベントに招かれ、荒馬踊り等を披露することもあります。

子どもたちは、さまざまな人との交流から、貴重な学びを得ています。

\* 横浜市の子育て支援事業の1つ。小学生たちは午後7時まで自分の通う学校で過ごすことができる。

#### 独自に取り組んでいる点

園生活の思い出を、子どもたちが持てるようにしています。

卒園に際し、一人ひとりの子どもに対し「卒園のうた」を作り、贈っています。その子の入園以来の思い出やエピソードを綴った詩を、全職員が関わって創り、曲を外部の専門家につけてもらっています。卒園式では、卒園児のみでなく、職員・在園児・父母等も皆で歌って、卒園を祝います。

また、一人ひとりの子どもの園生活の様子を写真に撮り、毎月数枚ずつをアルバムに貼り、アルバムは進級時・卒園時に本人に渡しています。

『大きくなって、苦しいこと・悲しいこと等に出会っても、仲間がいたこと、楽しかったことを「卒園のうた」「アルバム」で思い出し、くじけずに歩いて行って欲しい』という園の願いが込められています。

## 改善や工夫が望まれる点 書類ファイリングの工夫を

マニュアル・規程類を整備していますが、同じ文書がいくつかのファイルに綴られていたり、作成・実施日付等がないものが見受けられます。記録や通達等も同じファイル中にあり、マニュアルとの区別が判然としないものもあります。

ファイリングの方法を工夫し、職員の誰が見ても分かりやすく、使いやすいものにすることが望まれます。

## 評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

### 1、人権の尊重

- ◇ 保育の理念は、「共育て共育ち」として“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うこと”を掲げ、子どもを尊重したものとなっています。
- ◇ 保育士は、虐待の定義等について理解しています。毎日の視診を丁寧に行うように心がけています。
- ◇ 年度初めの職員会議で、人権についての学習を行っています。
- ◇ 個人情報保護に関する規程を、策定しています。

### 2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 保育目標は、お互いを認め合う仲間となろう、しなやかな体をつくろう、感性を豊かにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げています。
- ◇ 縦割りのグループに分かれて活動する「兄弟保育の日」を設け、異年齢児の関わり合いを重視しています。
- ◇ 合唱、荒馬踊り等、子どもの感性を豊かにするプログラムを取り入れています。
- ◇ 食への関心を大切にしています。
- ◇ 子どもたちは、お年寄り・近隣の人々・小学生等さまざまな人と交流しています。
- ◇ 卒園に際し、一人ひとりの子どもに対し「卒園のうた」を作り、贈っています。その子の入園以来の思い出やエピソードを綴った詩を、全職員が関わって創っています。

### 3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 子どもの主体性を大切にした年間指導計画を年齢ごとに立てています。
- ◇ 健康管理・感染症対策・衛生管理・安全管理について、それぞれマニュアルを整備しています。
- ◇ 苦情受け付け・解決に関するマニュアルを作成しています。
- ◇ 苦情受付担当者、苦情解決責任者を定め、「提案委員会ポスト（意見箱）」を設置しています。
- ◇ 第三者委員を3名選任しており、年度初めに全保護者に周知しています。
- ◇ マニュアル・規程類を整備していますが、ファイリングの方法を工夫し、誰が見ても分かりやすいようにすることが望めます。

### 4、地域との交流・連携

- ◇ 一時保育、交流保育、園庭開放、地域子育て支援（あそぼう会）等の取り組みを行っています。
- ◇ 育児相談は、随時受け付けています。
- ◇ 「地域新聞 はとの森っ子」を発行し、地域住民に情報提供しています。
- ◇ 世代間交流事業「いきいきあすなろ」では、近隣のお年寄りを月2回招待し、年長児との交流を図っています。
- ◇ 園のパンフレットや法人のホームページで、さまざまな情報を提供しています。

### 5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 事業者として守るべき法・規範・倫理等を、年度初めの法人全体職員会議で説明し、周知しています。
- ◇ 法人が運営する保育園合同の3園園長会議、3園園長主任保育士会議で運営上の課題の設定及び見直しを行っています。
- ◇ 法人として5年の中期計画を作成しています。

### 6、職員の資質向上の促進

- ◇ 自己評価票による目標設定や、園内外での研修・OJT等による人材育成計画があります。
- ◇ 理事長・園長が年2回職員と面接を行い、各自の目標設定とその結果について話し合っています。
- ◇ 法人が運営する他の2保育園の職員も含めた合同研修が定期的に行われている他、外部の研修会等へも積極的に参加しています。
- ◇ 研修報告書や職員会議により、職員同士で研修内容について情報を共有しています。さらに、研修等を受けた感想や、研修の成果を日常の保育にどう活かすか等について、園だよりに掲載する他、年1回報告書としてまとめ、父母へ配布しています。

## 分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

### 評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の理念は、「共育て共育ち」として、“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うこと”を掲げ、子どもを尊重したものとなっています。</li> <li>・ 年度初めに、法人の全職員を集め、理事長が理念・基本方針の説明を行い、周知徹底を図っています。</li> <li>・ 保育目標として、お互いを認め合う仲間となろう、しなやかな体をつくろう、感性を豊かにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げています。</li> <li>・ 保育計画は、保育の方針・地域の実態・父母の就労状況などを考慮しています。その内容は、年度初めのクラス懇談会で伝える他、4月の園だよりにも掲載しています。</li> <li>・ 保育計画に基づき、年齢ごとに指導計画を作成しています。</li> <li>・ 保育者は、子どもたちの意見を取り入れたり、態度・表情等から子どもの意思を汲み取ったりする等、子どもの自主性・主体性を尊重しています。</li> </ul>
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入園当日に、子どもの生育歴や家庭の状況等の書類を受け取ると共に、父母との面接および子どもの観察を行い、子どもの発達状況や課題を把握しています。</li> <li>・ 入園前の説明会の際に、相談用紙を父母に配布し、事前の相談にしています。また、希望があれば、入園前に親子で来園して過ごすことができます。</li> <li>・ 導入保育（ならし保育）が必要な場合は、新入園児の家庭と個別に話し合い、日程・時間など、それぞれの実情に合わせて決定しています。</li> <li>・ 導入保育中は、園での子どもの様子を写真に撮り、連絡ノートに貼って、父母に伝えています。</li> <li>・ 在園児の不安を少なくするために、4月の進級時には、前年度担任の内一人は持ち上がりになるように配慮しています。</li> <li>・ 年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案・日案と、きめ細かく計画を立てています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週案を、父母がいつでも見られる場所に掲示し、1週間の予定が分かるようにしています。</li> </ul>
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋内・外を清潔に保つため、清掃分担表をつくり、毎朝、職員が必要箇所の清掃を行っています。子どもたちが手伝うこともあります。</li> <li>・ 0、1、2歳児室は床暖房となっています。</li> <li>・ シャワーは、室内洗面所に備えられている他、屋外に1つ設置し、外遊び等で汚れた場合に利用できます。</li> <li>・ 0、1歳児室はそれぞれ二つの小部屋に仕切ることができ、月齢や発達状況に応じて、使い分けています。また、2～5歳児室は、それぞれ柵・仕切り板等を用いる等により、小集団保育に適した空間を確保しています。</li> <li>・ 玄関ロビー、テラス等は、異年齢児間の交流の場となっています。また、3、4、5歳児室の間の仕切りは取り外せるようになっており、必要に応じ、広いホールとして使うことができます。</li> <li>・ 1階（0、1歳児）と2階（2～5歳児）を結ぶ階段に柵等の仕切りはなく、子どもたちが自由に通れるようになっています。</li> </ul>
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別指導計画は、0、1歳児は全員、2～5歳児は、特に配慮を要する子ども等に対して作成しています。</li> <li>・ 個別指導が必要と思われる子どもの父母とは、個別面談を行ない、子どもの成長を、園と家庭が同じ視点で捉えていくように配慮しています。</li> <li>・ 一人ひとりの子どもの発達状況を、期ごとに、個人別のファイルに記録しています。</li> <li>・ 一人ひとりの子どもの園生活の様子を写真に撮り、毎月数枚ずつを個人別アルバムに貼り、アルバムは進級時・卒園時に本人へ渡しています。</li> <li>・ 卒園の際には、卒園児一人ひとりに対し、「卒園のうた」を作って贈っています。全職員が関わって、その子の入園以来の思い出やエピソード等を交えた詩を作り、外部の専門家が曲をつけています。</li> </ul>
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。</li> <li>・ 障がいのある子どもに関し、父母の同意を得て、療育センターや児童相談所等から助言や情報を得られる体制があります。</li> <li>・ クラスリーダー会議・職員会議等で、特に配慮を要する子どもや障がいのある子供への対応、必要な情報等を職員間で確認しています。</li> <li>・ 臨床心理士が月2回来園し、特に配慮が必要な子どもや障がいのある子どもへの関わり方や保育内容について、保育者に助言しています。</li> <li>・ 法人全体の職員学習会に臨床心理士を招き、障がい児保育について学んでいます。</li> <li>・ 現在、アレルギー疾患のある子どもはいませんが、在籍する場合には、子どもの主治医から意見書をもらい、それに沿った対応ができるようにしています。</li> <li>・ 職員会議等で、全職員にアレルギー疾患についての知識や情報を周</li> </ul>

	<p>知させています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、外国籍の子どもは在籍していませんが、オリンピックやワールドカップに関する新聞記事の切抜きを壁に貼る等して、子どもたちがいろいろな国へ興味・関心を広げるように工夫しています。</li> </ul>
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦情受け付け・解決に関するマニュアルがあります。</li> <li>・ 第三者委員を3名任命しており、年度初めに名前・連絡先等を書いた名簿を父母に渡しています。園内にも常時掲示し、第三者委員に直接苦情を申し立てる仕組みができています。</li> <li>・ 父母からの要望・苦情を受け付ける意見箱（提案委員会ポスト）を設置しています。さらに、理事長へ直接申し出ることができるように別の意見箱も設置しています。</li> <li>・ 要望や苦情の解決策は、5施設長会議、3園園長会議等により、法人全体で検討しています。各施設の職員にも職員会議等を通じて周知し、父母会にも伝えています。</li> </ul>

## 評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木製のままごと遊具、ブロック、絵本等が、コーナーごとに用意され、とり出しやすく、かつしまいやすく整理されています。</li> <li>・ 保育者は、ダンボールや牛乳パックを利用して工夫した遊具や手作りの抱き人形等を用意しています。</li> <li>・ 子どもたちは、公園で縄跳びを一緒に楽しんだり、保育室前の砂場や階段下の園庭の土で泥遊びをしたり、園庭の木製アスレチック遊具でも自由に遊び込んでいる様子が見られます。</li> <li>・ 「エンジョイデイ」という日は、子どもたちはとことん遊び込み、お腹がすくと自由に部屋に戻って昼食をとります。子どもたちは思いっきり遊んでいます。</li> <li>・ 保育者は、絵本の読み聞かせやお話しをした後、その話に関連する子どもたちの自由な発想を引き出し、遊びに取り入れて発展させるよう援助しています。</li> <li>・ 夏季には、近くの川や田んぼでカブトムシやザリガニ、カエル、おたまじゃくしを捕まえてきてクラスで飼育する等、日常的に小動物と親しんでいます。</li> <li>・ 3、4、5歳児は、朝の会で一緒に歌を歌います。5歳児は卒園式で歌う、一人ひとりに作られた「卒園のうた」を大きな声で上手に歌います。また、荒馬踊りにも挑戦しており、地域の催しに参加して、大勢の人の前で披露する等の体験をしています。</li> <li>・ 「兄弟保育の日」は、3・4・5歳児が縦割りりで数グループに分かれ、一緒に遊んだりして過ごしています。さらに5歳児は、午睡後に年下のクラスへ行って、着替えやおやつ準備、遊び相手、布団片付けなどのお手伝いを日常的に行っています。</li> <li>・ 保育者は、荒馬踊りや合唱等ではいつも子どもと一緒に生き生きと行動しています。また、保育者は、穏やかなことばでゆっくりと子どもたちに話しかけています。</li> <li>・ 子ども同士のもめごとでは、自分の言いたいことを上手に伝えられない年少の子どもの場合、保育者が入って話を仲介し、気持ちを伝えられるように援助しています。</li> <li>・ 子どもたちの健康増進のために、できるだけ散歩を取り入れています。行き先は、子どもの発達に応じて決めていきます。月に1度の「お弁当の日」には、家から持ってきたお弁当を持って、給食に戻ることなく、日頃行けないような遠くまで散歩に出かけます。</li> </ul>

## - 1 保育内容[生活]



- ・ 給食の配膳は、基本的には保育者が行いますが、子どもたちは年齢が上がるにつれてお手伝いが増えます。例えば、5歳児の当番は、米をとき、炊飯器でご飯を炊き、給食の時間にはご飯とおかずの盛り付けを行います。食前のあいさつから片付けまで、自信を持って当番の仕事をしています。
- ・ 食材は、有機栽培等の米や野菜を使用する等、食の安全性に気を付けています。また、木製や陶器の食器を使用し、本物を大切に使うことを子どもたちは体験しています。
- ・ 卒園前になると、5歳児は「リクエストメニュー」といって、これまでに食べたメニューの中でもう一度食べたいものを、一人ひとりが希望することができます。そのメニューを全園児が「 ちゃんのリクエストメニュー」としていただき、共に卒園を祝う気持ちを育てています。
- ・ 献立は、法人運営の3保育園合同の給食検討会議で決定し、3園とも同じ日には同じ献立としています。献立表は、毎日のメニューだけではなく、その日の食材やカロリー、旬の食材を使ったレシピを掲載するなどの工夫をして、毎月、父母に配布しています。献立の作り方を知りたい父母には、レシピを書いて渡しています。
- ・ 献立表の他に毎月「給食室だより」を発行し、「給食室から今伝えたいこと」というコーナーでは、お箸の持ち方や姿勢の話等を掲載し、父母に伝えています。
- ・ 栄養士は、子どもの喫食状況を見てまわり、子どもたちの話を聞いたり、残食の様子を見たりし、次の献立に反映させています。
- ・ 保育参加をした父母は、子どもと一緒に昼食を食べることができます。その際に、園は父母から感想を聞いて、次の献立に反映させています。
- ・ 5歳児は、就学に向けて、11月頃からは午睡をしません。その時間帯に5歳児は、卒園記念制作に取り組んだり、他のクラスの職員と遊んだりするなど、さまざまなプログラムに取り組んでいます。
- ・ 保育者は、2歳児について個人別排泄一覧表を作成し、一人ひとりの排泄のリズムをつかんで対応しています。また、保育者間で情報を共有しています。

## - 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 健康管理に関するマニュアルがあります。子ども一人ひとりの健康について、既往症やアレルギー状況等を含め、個人別に記録しています。
- ・ その日の園での子どもの様子は、連絡帳に記入するほか、送迎時に父母へ直接話すように心がけています。
- ・ 歯磨きは、2,3歳児は保育者が仕上げ磨きをしています。5歳児は歯科医による歯磨き指導を受けています。
- ・ 感染症等対応マニュアルがあり、職員に配布しています。また、全職員は感染症に関する研修を受け、理解しています。
- ・ 保育時間中に感染症が発症した場合は、速やかに父母へ連絡をとります。園は、父母がすぐに迎えにこられない場合、園で預かる等の配慮をしています。また、速やかに園の掲示板でその他の父母へ周

	<p>知っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健診は嘱託医によって行われています。結果は父母に伝え、かかりつけ医との連携が取れるように配慮しています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衛生管理マニュアルがあり、職員はマニュアルに沿って当番表を作成し、清掃に取り組んでいます。</li> <li>・ マニュアルは、年度始めのカリキュラム会議で話し合い、内容の見直しをしています。</li> <li>・ 毎週土曜日は、日頃できない箇所を清掃する日に決め、エアコンフィルターや戸外遊具等の清掃を行っています。</li> <li>・ 沐浴室やトイレには、消毒についての説明書を掲示し、いつでも確認できるようになっています。</li> <li>・ トイレは清潔に保たれており、いやな臭いはありません。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理に関するマニュアルがあり、全職員に周知しています。事故や災害に備え、毎月、避難訓練・消火訓練を実施しています。</li> <li>・ 子どものケガに関しては、首から上のケガや大きなケガの場合は、父母に連絡を取り、受診しています。受診後は父母に報告し、その後の経過についても連絡しあう等、連携をとっています</li> <li>・ 病院で受診をしたケガについては、事故報告書に記入して職員全員に周知することにより、再発防止に努めています。ちょっとしたケガや事故は、日誌に記入しています。</li> <li>・ 救命救急法は、消防署予防課に依頼して、全職員が研修を受けています。</li> <li>・ 門はいつも施錠し、カメラ付きインターホンで確認した後、門を開ける等不審者侵入防止を心がけています。また、警察署からの不審者情報も逐次入るようになっています。</li> </ul>
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権についての学習を年度初めに行っており、職員は人権について理解しています。子どもたちは、「ちゃん」「くん」と呼ばれています。</li> <li>・ プライバシーが守れる場所としては、事務室を必要に応じて提供しています。</li> <li>・ 個人情報取り扱いについての規程を作成しています。</li> <li>・ 個人情報の取り扱いについての学習会を、年度始めに法人全体で開催し、職員は個人情報の取り扱いや守秘義務の意義・目的についても理解しています。</li> <li>・ 虐待について職員は学習し、よく理解しています。保育者は、毎日の視診を丁寧に行うように心がけています。虐待の恐れがある子どもが欠席した場合は、電話をしたり家庭訪問をしたり等、適宜対応するようにしています。</li> <li>・ 男性保育者がおり、日々接していることで、子どもたちも職員も、性差により仕事に違いがないことを実感しています。</li> </ul>

#### - 4 保護者との交流・連携



- ・ 保育の基本理念と保育目標については、入園説明会やクラス懇談会で説明し、園だより、入園のしおり、ホームページ等にも掲載し、父母が理解できるように努めています。
- ・ 個別面談やクラス懇談会を実施し、父母には保育参加を勧めています。保育参加は、父母が参加したいときにいつでも参加でき、園内での子どもの様子に触れることができると喜ばれています。
- ・ 父母の相談にはできるだけ応じています。記録は個人別ファイルに綴じこんで、施錠できる書庫に保管しています。
- ・ 子どもの園での様子は、園だより、給食だより、保健だより等で紹介するとともに、廊下に写真を貼り、日常の子どもの様子を父母が見られるように配慮しています。また、子ども一人ひとりの様子を写真にとって個人アルバムを作成し、進級時や卒園時に渡しています。
- ・ 廊下には、週案を掲示していますので、父母は、子どものその週の活動をあらかじめ知ることができます。
- ・ 父母の会があり、役員会には園長や主任も出席しています。
- ・ 父母は「おたよりプロジェクト」「バザー実行委員会」「環境整備委員会」「運動会実行委員会」「父母の会役員」の5つの会のどれかに所属し、子どもたちが生き生きと園生活を送ることができるように、保育園を支援し協力しています。また、保育園も父母の活動を支援し、父母と協力していく体制があります。

## 評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一時保育、育児相談、地域交流（「あそぼう会」）、園庭開放等、地域の子育て支援事業を積極的に実施し、子育て支援ニーズの把握を行っています。地域へのお知らせは、外の掲示板や区役所広報紙等で行っています。</li> <li>・ 地域交流「あそぼう会」は、月2回開催しています。地域の子育て中の親子を対象に実施しており、散歩や泥遊び、ゲーム等に毎回50組位の親子が参加しています。実施場所は、園庭、近くの公園などです。近隣の系列園と2園合同で行っています。</li> <li>・ 地域住民に向けて保育に関する講習・研修会を開催しています。また保育者が、和太鼓の講習会や学校での福祉教育に講師として呼ばれることもあります。食育については、栄養士が講師として呼ばれ、子育て中の母親に食育に関する話をしました。</li> </ul>
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民への情報提供は、掲示板や区の広報、「地域新聞 はとの森っ子」の地域への全戸配布で行っています。</li> <li>・ 育児相談は、随時受け入れており、担当は園長、主任です。「あそぼう会」に参加した保護者から、育児についての相談を受けています。</li> <li>・ 保護者からの相談内容に応じて、療育センターや区役所福祉保健センターと連携して対応する体制があります。</li> </ul>

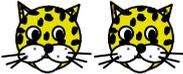
評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クリスマス会、おたのしみ会、どんと祭り、焼きいもパーティ等に、地元連合町内会を通じて、地域住民を招待しています。</li> <li>・ 世代間交流事業「いきいきあすなろ」として、近隣の一人住まいをしているお年寄り等を月2回招待し、年長児と、お正月遊び・お手玉・ボーリング等をして交流しています。</li> <li>・ 子どもたちは散歩の際に、地域の人々と気軽に挨拶を交わしています。</li> <li>・ 図書館、近隣の公園にあるログハウス等、地域の文化・レクリエーション施設を子どもたちが利用しています。</li> <li>・ 近隣の小学校の作品展に、子どもたちの作品を出展したり、「新1年生ようこそ」の会へ参加したり、交流を図っています。</li> <li>・ 法人が運営する他の2つの保育園の園児や、キッズクラブ(2カ所)の小学生との交流を、積極的に行っています。</li> </ul>
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園のパンフレット、ホームページ等で、園の情報を提供しています。</li> <li>・ TV番組の育児相談に園長が出演した他、育児関連雑誌の取材に協力し、園の情報を提供しています。</li> <li>・ 利用希望者からの問い合わせには、園のパンフレットに基づいて説明しています。</li> <li>・ 見学希望者は、いつでも受け入れており、曜日や時間は見学希望者の都合に合わせています。</li> <li>・ 新年度からの利用希望者には、区役所への申し込みよりも前の時期に、入園説明会を開き、園の保育理念・方針等を理解してもらうようにしています。</li> </ul>
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア受け入れマニュアルがあります。</li> <li>・ 小・中・高校生のボランティアを受け入れています。</li> <li>・ 卒園児が訪れたり、実習生として来た学生がその後ボランティアとして来園したりすることもあります。</li> <li>・ 近隣のお年寄りが、週3日、乳児クラスをボランティアとして訪れています。</li> <li>・ ボランティア活動終了後、ボランティアと園長・主任とで反省会を行っています。</li> <li>・ 実習生受け入れマニュアルがあります。</li> <li>・ 実習内容は、実習生の希望に沿うようにしています。標準的には、実習生の習熟度に応じて、実習期間中、0歳児～5歳児の全てのクラスで保育経験する場合と、一つのクラスで保育およびクラス運営を経験する場合の2コースを用意しています。</li> <li>・ 実習終了後は、クラスリーダー、主任、園長が参加して反省会を行っています。</li> </ul>

## 評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価票による目標設定や、園内外での研修・OJT などによる人材育成の計画があります。</li> <li>・ 理事長・園長が、年2回、職員と面接を行い、各自の目標設定およびその結果について話し合っています。</li> <li>・ 法人が運営する他の2保育園の職員も含めた合同研修・学習会等が定期的に行われています。鬼剣舞・荒馬踊り・合唱等の講習や、沖縄平和学習の旅・無言館平和学習の旅等があります。</li> <li>・ 外部の研修会等へも積極的に参加しています。</li> <li>・ 研修結果は、報告書により全員が共有できるように工夫しています。また、研修を受けた感想や日常の保育にどう活かすかについて、園だよりに掲載する他、報告書としてまとめ、父母へ配布しています。</li> <li>・ 非常勤職員も園内外の研修に参加する他、カリキュラム会議、学習会等に参加しています。</li> </ul>
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者一人ひとりが、毎月、目標を定め、その結果を「実践報告」「月次報告」としてまとめ、園長・主任に提出しています。</li> <li>・ 法人内の他の2保育園とのクラス担任交流を行い、相互の良い所を取り入れるように図っています。</li> <li>・ 臨床心理士が月2回来園し、子どもたちとともに過ごした後、特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもへの接し方や課題について、保育者に助言・指導を行っています。</li> <li>・ 1・2年、3-6年、7年以上という経験年数に応じてテーマを定め、外部講師を招いて研修を行っています。</li> </ul>
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価票に経験年数に応じた期待水準が明記されています。</li> <li>・ 外部の大会・研究会等で、「実践報告」「事例研究」等を発表する機会があり、職員の励みになっています。</li> <li>・ 理事長・園長・主任は、日常的に、職員と良好なコミュニケーションをとるようにし、提案や意見を出しやすくしています。</li> <li>・ 各人の目標とその結果について、年2回、理事長・園長と面談しています。</li> </ul>

## 評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業者として守るべき法・規範・倫理等を、年度初めの法人全体職員会議で説明し、周知しています。</li> <li>・ 個人情報保護について、弁護士を招いて学習会を行っています。</li> <li>・ ゴミの分別を行ったり、行事の際には、ゴミの持ち帰りを参加者に呼びかたりしています。また、必要のない電気はこまめに消す等、省エネルギーにも努めています。</li> <li>・ 有機栽培等の米や野菜をできる限り使用し、食品の安全性に配慮するとともに、環境への負荷の低減に寄与しています。また、法人内の3保育園で、同じ日に同じ献立とすることにより、食材廃棄物の削減を図っています。</li> <li>・ 環境配慮の考え方を、園の方針や目標の中に位置づけるには至っていません。</li> </ul>
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の理念・基本方針・保育目標を園内に掲示し、毎日、職員が目にし、確認できるようにしています。</li> <li>・ 法人全体の職員会議で、各クラスからの実践報告をもとに、理念の確認をしています。</li> <li>・ 父母の会役員会に理事長・園長・主任が同席し、意見交換を行っています。</li> <li>・ 外部の主任保育士研修を受けさせる等、主任クラスを計画的に育成する仕組みがあります。</li> <li>・ 園長・主任は、年度初めに、運動会・バザー・園だより等の係り分担を決めるに際して、本人の適性や経験等を考慮しています。</li> <li>・ 主任は、日々の保育の中での職員の子どもたちへの接し方等を把握し、適切な助言・指導を行っています。</li> </ul>
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人として5年の中期計画を定めています。</li> <li>・ 3園園長会議、3園園長主任保育士会議を定期的に行き、情報の共有や重点課題の設定を行っています。</li> <li>・ 遊具や園庭の整備を重要な改善課題として位置づけています。</li> <li>・ 法人として、子育て中の親子、障がいのある人々、お年寄り等を支援する総合的な地域支援センターを計画しています。</li> <li>・ 理事会メンバーに、外部の学識経験者、連合町内会会長、区社協会会長、公認会計士等があり、運営に関して意見交換しています。</li> </ul>

## 利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2007年1月20日～2月9日
- 2、実施方法 全園児の保護者に対して事業者側から直接配布  
各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送
- 3、回収率 58.8%（回収数47枚/配布総数80枚）
- 4、所属クラス 0歳児...6人、1歳児...11人、2歳児...11人、3歳児...6人、4歳児...6人、5歳児...6人  
無回答...1人

\*ただし同一家族で複数名が園に在籍の場合には、下の児童のクラスについて回答。

### 設問ごとの概要

- 【問1】**保育目標や保育方針**は、「よく知っている」「まあ知っている」という回答が90%近くあります。その全員が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。
- 【問2】**入園時の状況**は、満足度は高く、特に「入園前の見学や説明など、園からの情報提供」「お子さんの様子や生育歴などを聞く対応」「園の目標や方針についての説明」の3項目は、ほぼ全員が満足しています。
- 【問3】**年間の計画**は、ほぼ全員が満足しています。“行事が多く、負担だ”という声がありますが、一方で“参加するうちに意義を感じた”等、積極的に捉えている意見が多数あります。
- 【問4】**日常の保育内容の遊び**では、全ての項目で満足度が高く、特に「園のあそび（お子さんが満足しているかなど）」「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動」「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組み」の3項目は、全員が満足しています。“本当に楽しそうに遊んでいる”“子どもが生き生きしている”“体をこころゆくまで動かしている”“大満足です”等の声がいくつもみられます。
- 生活**では、「給食」に対する満足度が非常に高く、“季節感にあふれ、素材にも気が配られ、メニューも充実していておいしい”等々、感謝の声がよせられています。他の項目についても多くの保護者が満足しています。
- 【問5】**保育園の快適さや安全対策**は、概ね満足しています。
- 【問6】**園と保護者の連携・交流**は、「園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供」については全員、他の項目についてもほとんど全員が満足しています。“園だよりはありすぎるくらい”“連絡帳を中心に良いコミュニケーションがとれている”“他のクラスの先生方も送迎の時に声をかけてくれ、子どもの様子がよくわかる”等の声があります。
- 【問7】**職員の対応**は、「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」について満足度が高く、他の項目についてもほぼ満足しています。“職員の方々がみな本当に熱心で体調を崩さないか心配です”という声があります。
- 【問8】**総合的な評価**は「満足」「ほぼ満足」を合わせると97.9%と非常に高くなっています。
- 【問9】**自由記入欄**には、園への感謝が多く述べられており、多忙な毎日がんばっている職員へのエールも書かれています。また、市への要望もあり、“保育の質を守るために、もっと予算をつけてほしい”という声がいくつも見られます。

### まとめ

保育目標や方針には、ほとんどの保護者が共感を示し、「その方針に共感して入園を希望した」という人もいます。また、遊び、給食、その他子ども同士や子どもと保育者との関係、園からの情報など、園での生活に非常に満足しています。

# 利用者（園児）家族アンケート集計結果

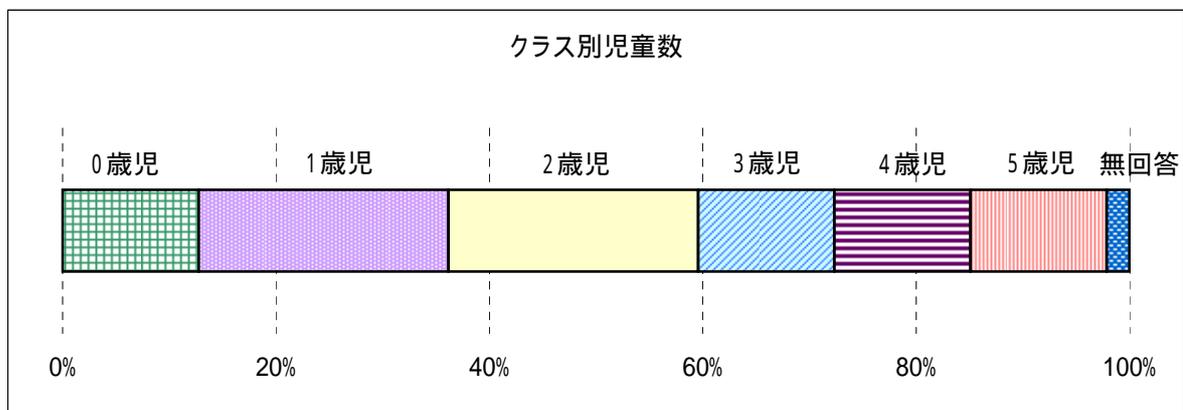
実施期間： 2007年 1月20日～2月9日

回収率： 58.8% （回収数 47枚 / 配付総数 80枚）

## 【属性】

クラス別児童数 同一家族で複数名が在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答	合計
6	11	11	6	6	6	1	47



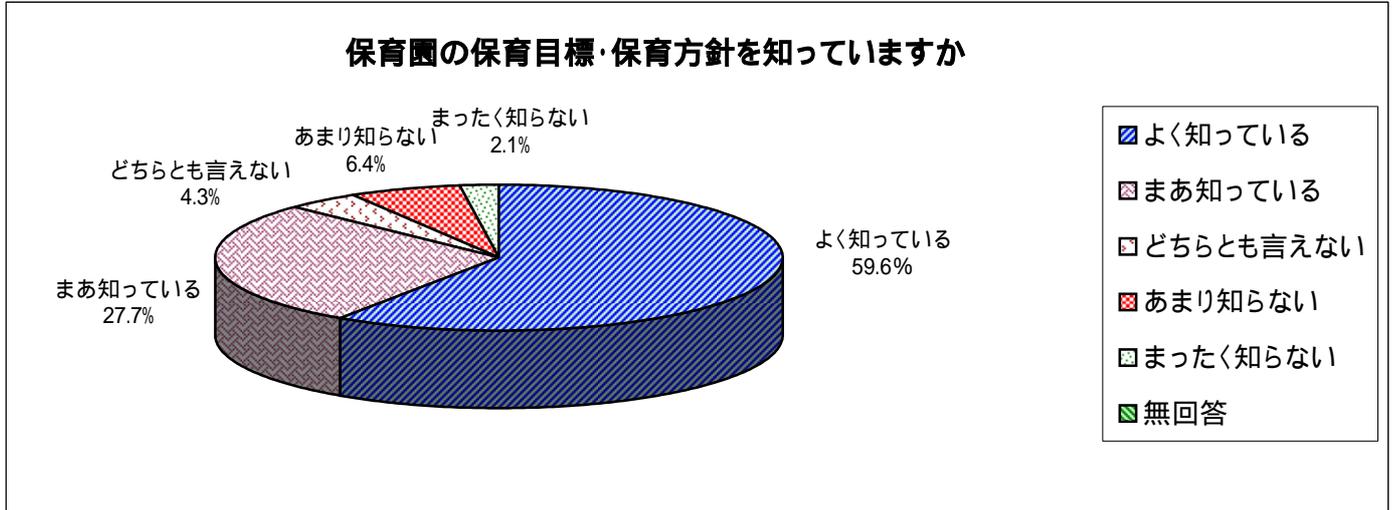
## 保育園の基本理念や基本方針について

### 問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	59.6	27.7	4.3	6.4	2.1	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

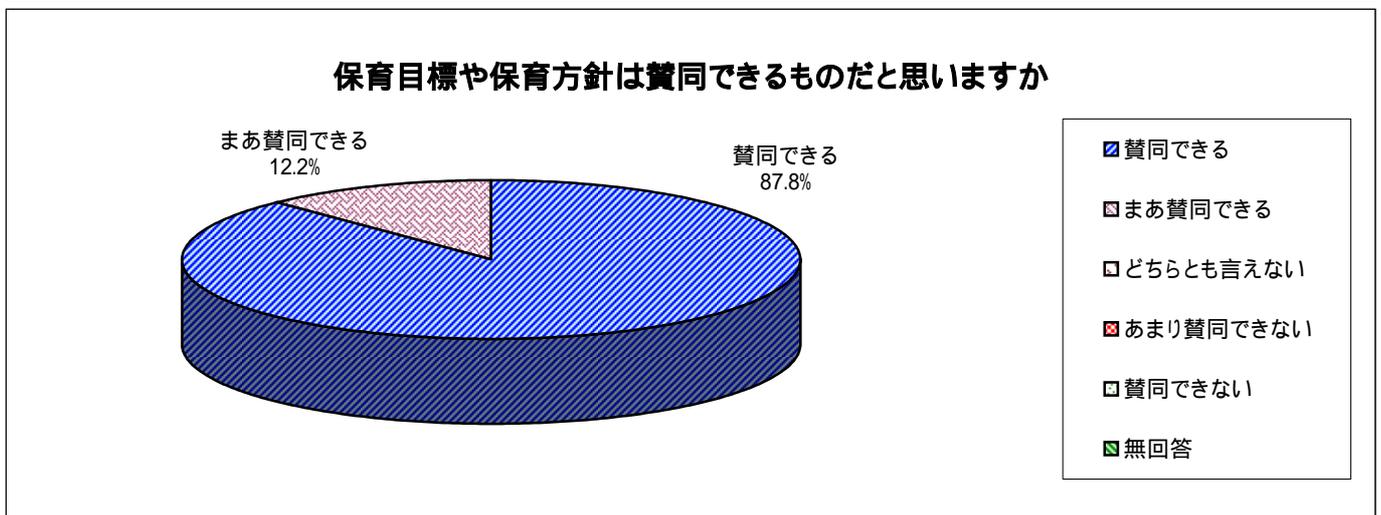


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

### 付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

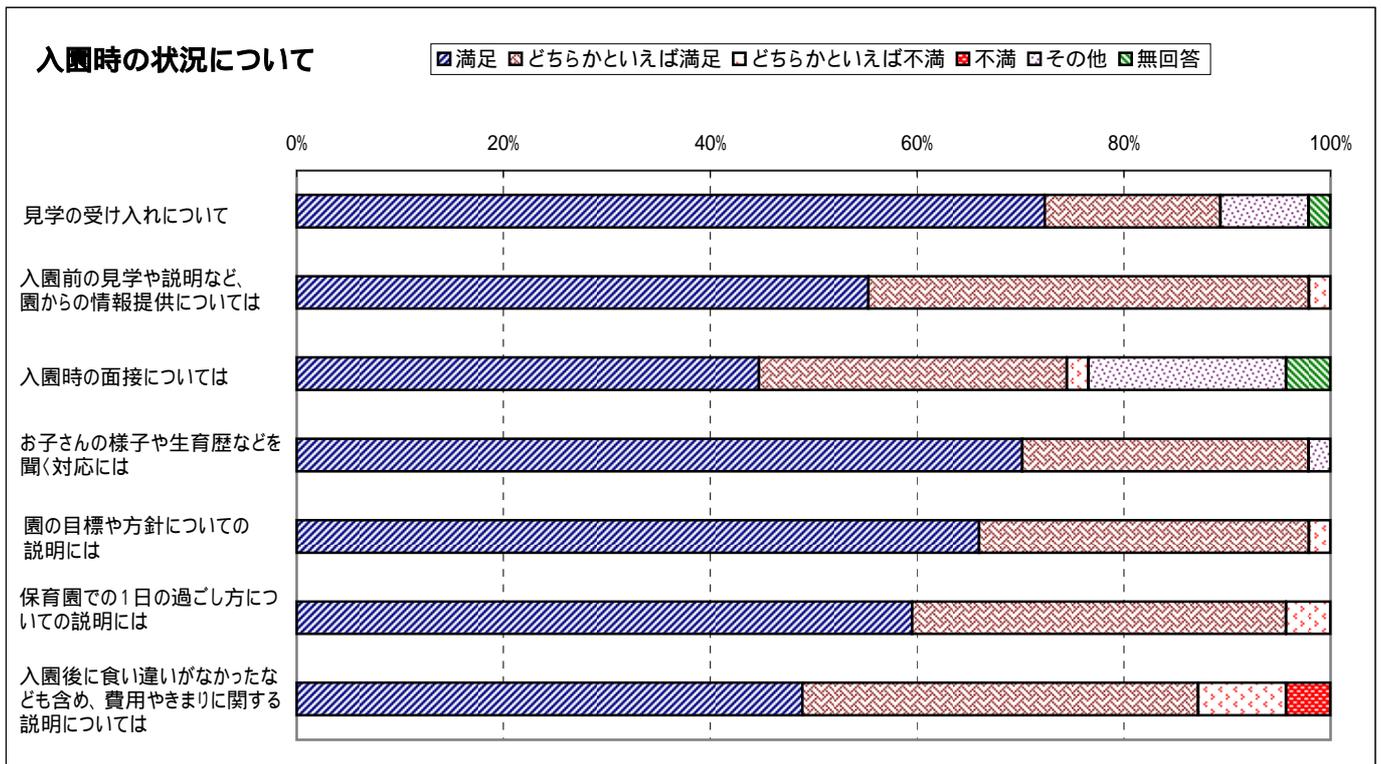
付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	87.8	12.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100



## 保育園のサービス内容について 問2 入園時の状況について

(%)

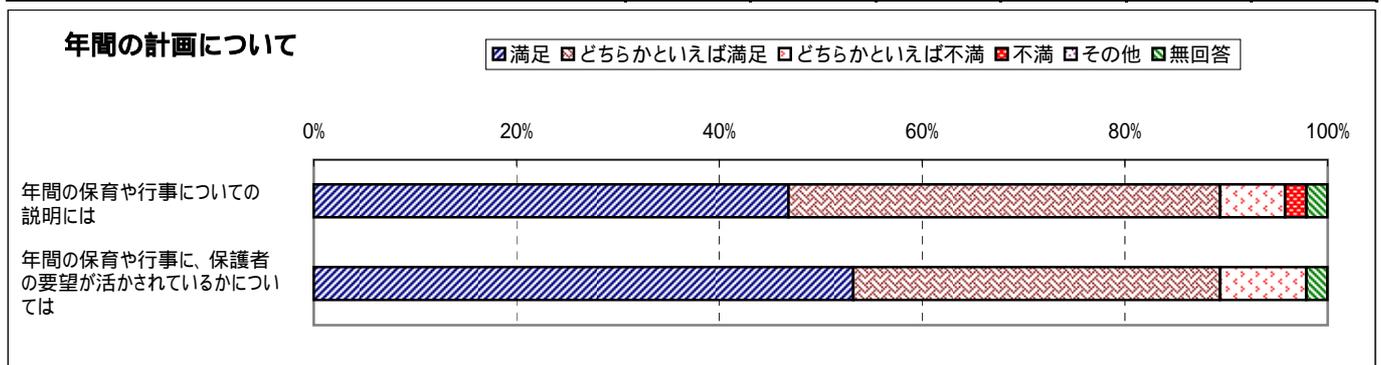
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	72.3	17.0	0.0	0.0	8.5	2.1	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	55.3	42.6	2.1	0.0	0.0	0.0	100
入園時の面接については	44.7	29.8	2.1	0.0	19.1	4.3	100
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	70.2	27.7	0.0	0.0	2.1	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	66.0	31.9	2.1	0.0	0.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	59.6	36.2	4.3	0.0	0.0	0.0	100
入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明については	48.9	38.3	8.5	4.3	0.0	0.0	100



## 問3 年間の計画について

(%)

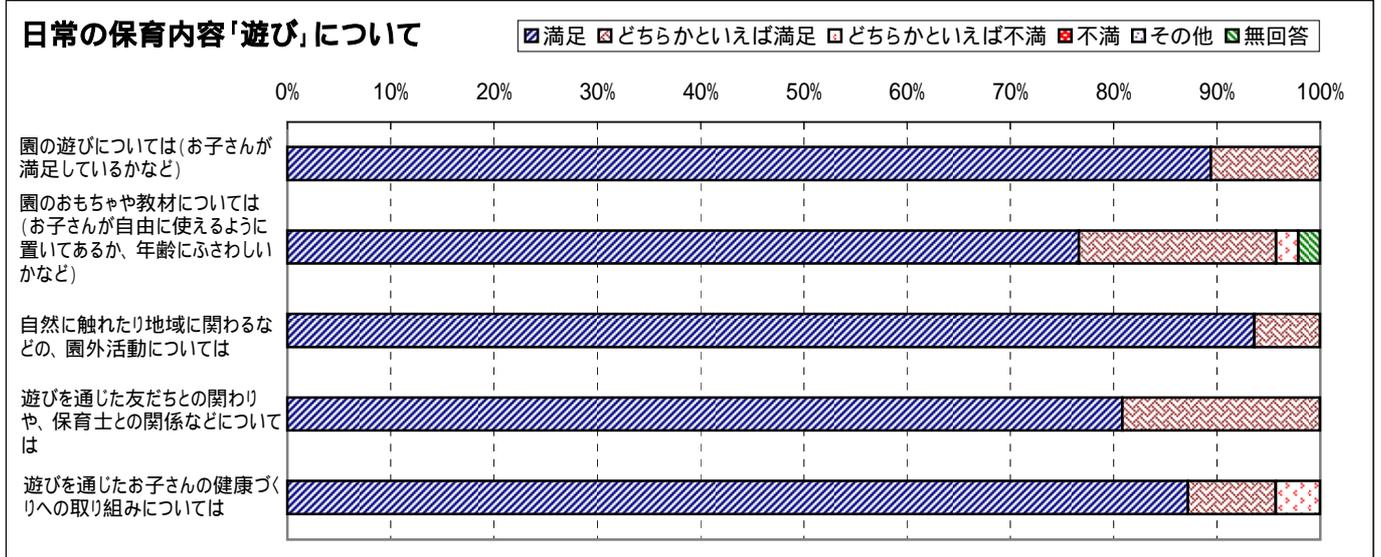
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	46.8	42.6	6.4	2.1	0.0	2.1	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	53.2	36.2	8.5	0.0	0.0	2.1	100



## 問4 日常の保育内容について

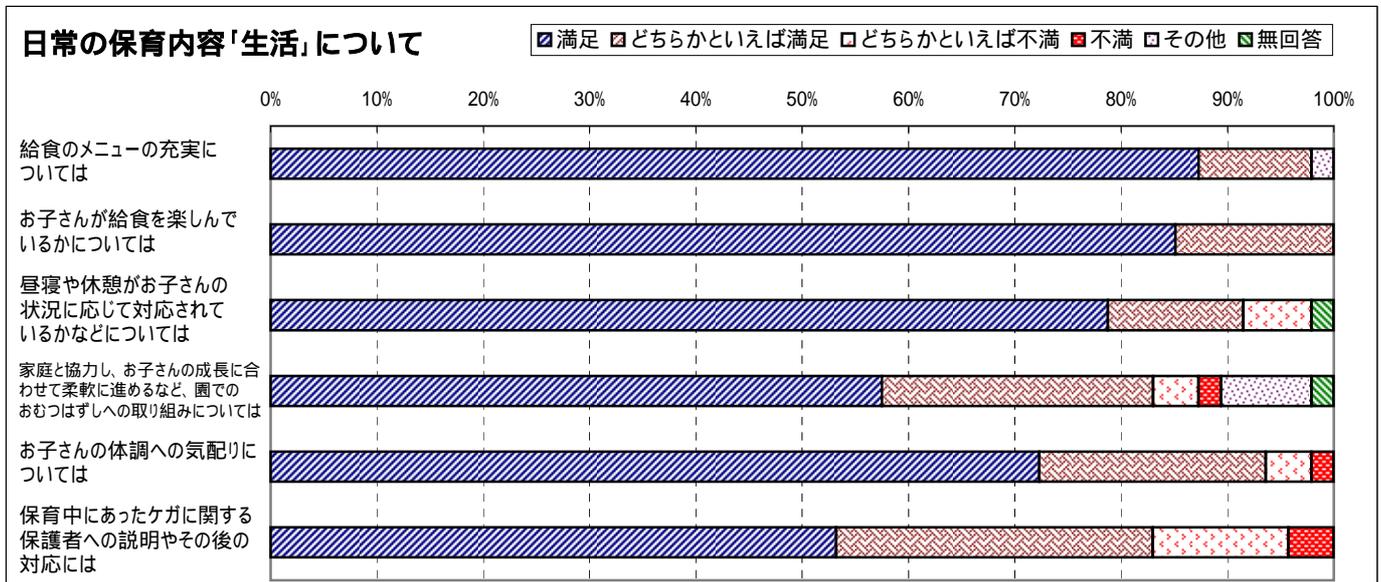
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園の遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	89.4	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	76.6	19.1	2.1	0.0	0.0	2.1	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	93.6	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	80.9	19.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	87.2	8.5	4.3	0.0	0.0	0.0	100



(%)

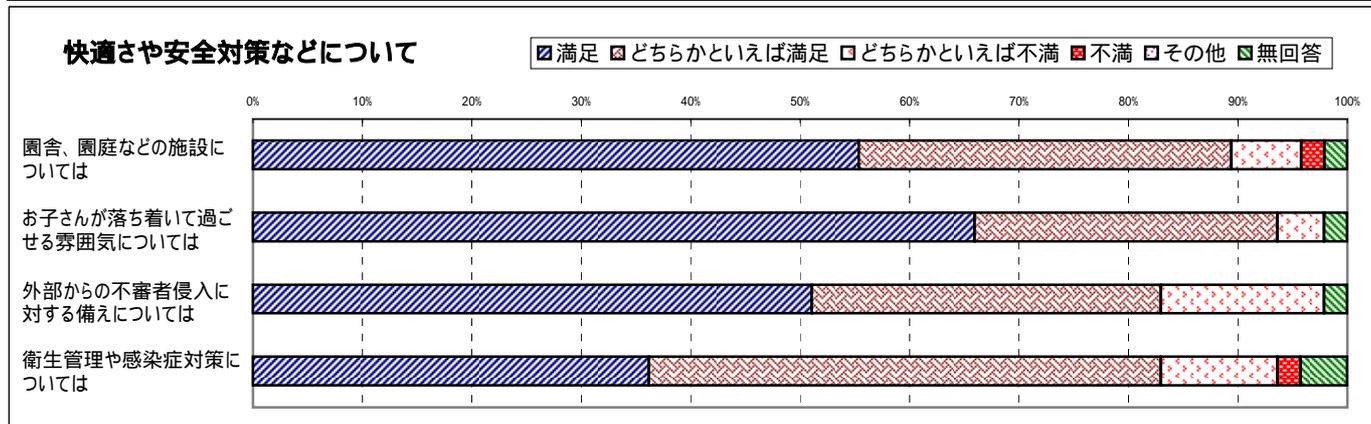
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食のメニューの充実については	87.2	10.6	0.0	0.0	2.1	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	85.1	14.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	78.8	12.8	6.4	0.0	0.0	2.1	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	57.5	25.5	4.3	2.1	8.5	2.1	100
お子さんの体調への気配りについては	72.3	21.3	4.3	2.1	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	53.2	29.8	12.8	4.3	0.0	0.0	100



### 問5 快適さや安全対策などについて

(%)

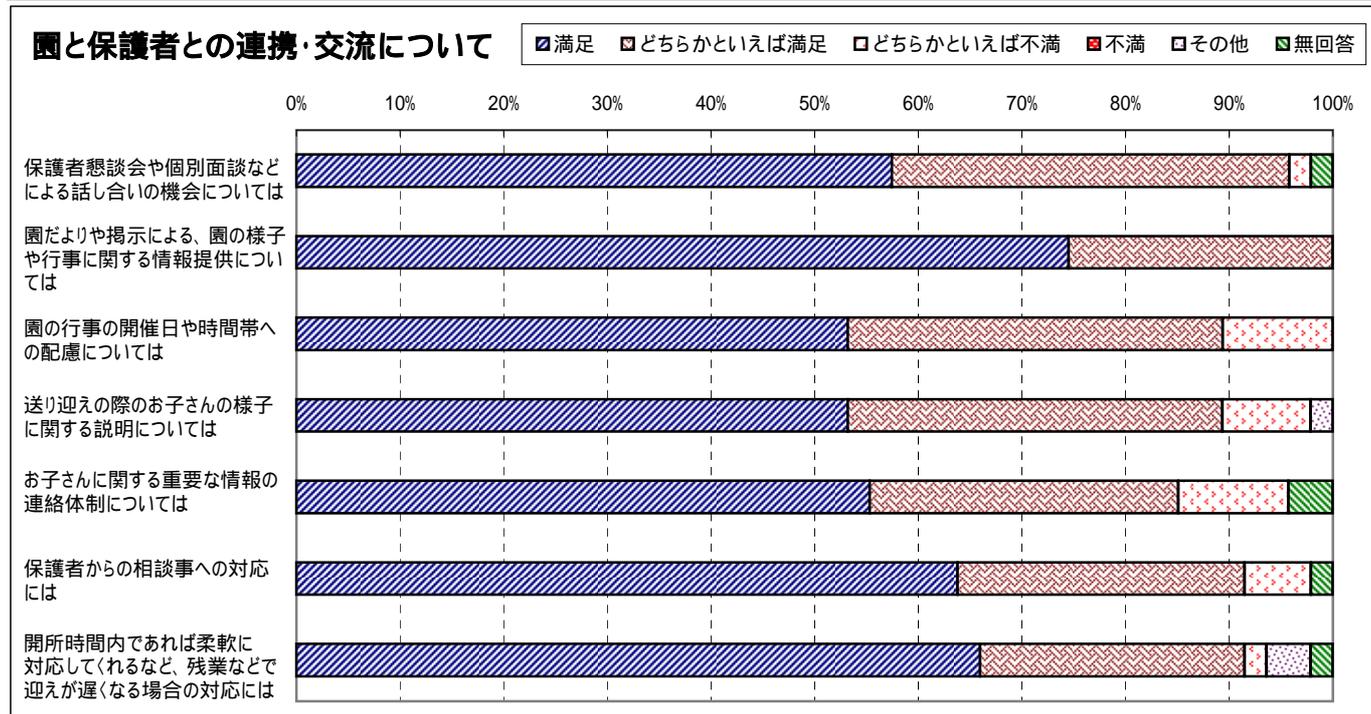
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園舎、園庭などの施設については	55.3	34.0	6.4	2.1	0.0	2.1	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	66.0	27.7	4.3	0.0	0.0	2.1	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	51.1	31.9	14.9	0.0	0.0	2.1	100
衛生管理や感染症対策については	36.2	46.8	10.6	2.1	0.0	4.3	100



### 問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

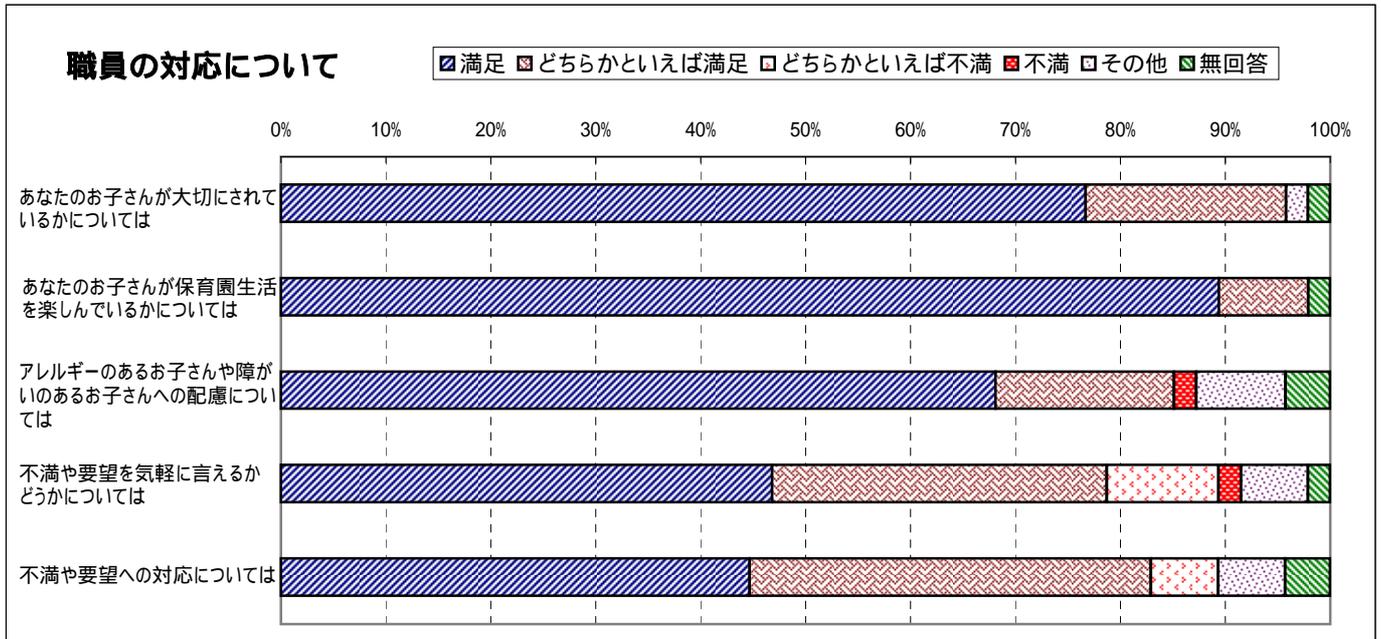
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	57.4	38.3	2.1	0.0	0.0	2.1	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	74.5	25.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	53.2	36.2	10.6	0.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	53.2	36.2	8.5	0.0	2.1	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	55.3	29.8	10.6	0.0	0.0	4.3	100
保護者からの相談事への対応には	63.8	27.7	6.4	0.0	0.0	2.1	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66.0	25.5	2.1	0.0	4.3	2.1	100



## 問7 職員の対応について

(%)

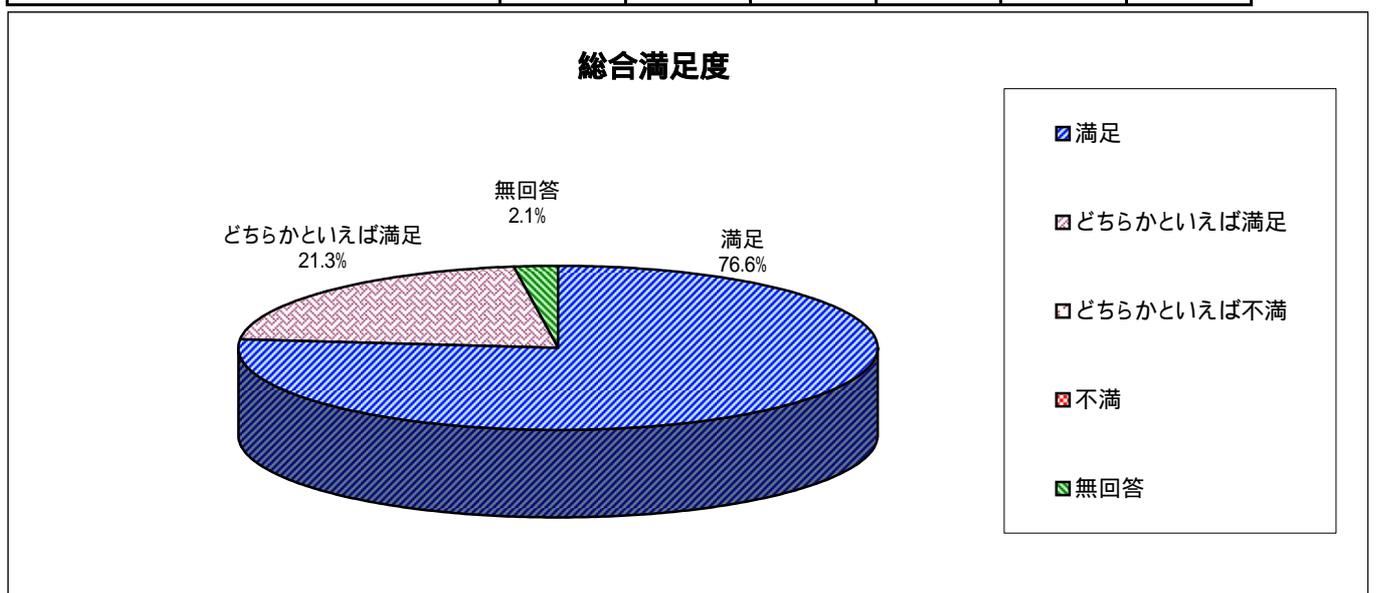
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	76.6	19.1	0.0	0.0	2.1	2.1	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	89.4	8.5	0.0	0.0	0.0	2.1	100
アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの配慮については	68.1	17.0	0.0	2.1	8.5	4.3	100
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	46.8	31.9	10.6	2.1	6.4	2.1	100
不満や要望への対応については	44.7	38.3	6.4	0.0	6.4	4.3	100



## 問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	76.6	21.3	0.0	0.0	2.1	100



## 利用者本人調査 分析

観察調査	2月26日(月)	9:30~13:00	15:30~16:30	全クラス(0,1,2,3,4,5歳児)対象
	3月6日(火)	9:00~13:00	14:30~16:30	全クラス(0,1,2,3,4,5歳児)対象

観察中、5歳以上の園児を中心に適宜聞き取りを行いました。

### 1. 遊びについて

- 0歳児は、この日は月齢により2グループに分かれました。隣同士の部屋で保育者に見守られて、それぞれに穏やかに過ごしています。
- 月齢の低い子どもたちは、保育室の前の砂場で保育者と一緒に遊びました。体調の悪い子どもは、室内で保育者に見守られて、保育者手作りのおもちゃで遊んでいます。
- 一方、月齢の高い子どもたちは、園庭で、泥で遊んだり、縄跳びの綱で電車ごっこをしたり、木製遊具の滑り台を下からハイハイで登って行きました。泥んこになって遊んだ後戻り、保育室の前で手と足をきれいに洗ってもらい、その後着替えてオムツも替えてもらいました。
- 室内では、手作りのおもちゃで保育者に見守られて遊びました。
- 1歳児は、2組に分かれ隣同士の部屋で過ごしています。それぞれ散歩しながら近くの系列園まで行き、系列園の子どもたちと一緒に、ままごとで遊びました。道の途中にある階段に来ると、よつばいになり、後ろ向きになって階段を下ります。
- 散歩から戻り手を洗い、オムツを替えてもらった後は、南面のベランダで積み木遊びをしたり、絵本を読んだりしてもらいます。ある子が隣の子の積み木を取り上げてもめ始めましたが、保育者が中に入り話しかけるとおさまりました。
- 2歳児は、棚で部屋を2つに分け、それぞれのスペースで過ごしていますが、散歩は一緒に行きました。公園への道がいくつかあり、保育者が「どちら回りにする?」と聞くと「こっち」と子どもが答え、その道を行きました。子どもは散歩に慣れている様子で歩いています。道を横切る所では、保育者から止まるように言われ、皆で耳をすまし、大丈夫だったら渡っています。途中で配達のおじさんや交通整理のおじさん、清掃車のおじさんにも元気よくあいさつをします。公園では、パンダや馬の遊具に乗り、プランコや滑り台でも遊びました。遊具の取り合いでもめましたが、保育者の話を聞いてすぐに仲直りをし、遊びに戻りました。
- 室内では、おもちゃや積み木、抱き人形等で遊びます。
- 3歳児は、朝は4,5歳児と一緒に歌を歌い、5歳児の演じる荒馬踊りを熱心に見ていました。卒園する5歳児の歌もいつの間にか覚えて、一緒に歌っています。3,4,5歳児は一緒に公園に行くことになり、3歳児は、トイレに行って保育者からお話を聞いた後、出かけました。横断歩道の前では、皆で左右を確認してから渡ります。交通整理のおじさんに「有り難うございます」と声をかけました。公園では、5歳児の大縄跳びを見た後、全員で「氷鬼」をすることになり、3,4歳児は走り回って鬼から逃げました。「氷鬼」を何度か繰り返した後、3歳児は早めに公園を出ました。帰り道では、坂道の下まで来ると、保育者の「ヨーイドン」の掛け声で、皆でかけっこをして駆け上がります。園に着くと足を洗った後、部屋に戻り、裸になって着替えをしました。それから洗面所に行って手を洗い、うがいをしました。
- 2日目は、造形の日で、「画用紙を台紙として色紙を貼る」という作業に集中しました。造形の先生は、2歳のときから教えてもらっている先生で、子どもたちとも仲良しです。
- 自由遊びでは、木の積み木で線路を作ったり、ブロックで遊んだり、数人がかたまって遊んでいる様子も見られました。
- 4歳児も3,5歳児と一緒に朝の歌をうたい、5歳児の荒馬踊りを「ラッセラーラッセラー」と掛け声をかけながら見た後、保育者からの「やってみる?」という誘いを受け、笛と太鼓に合わせて飛び跳ねました。
- 公園では、3歳児と一緒に、5歳児の大縄跳びを見た後、「氷鬼」では一生懸命走り回りました。
- 午睡後は、絵本を見たりし、男の子たちはこま遊びに夢中で、女の子たちはままごとで遊びました。

- ・ 5歳児は、リーダーとしての自覚が育っているようで、荒馬踊りや大縄跳び、「氷鬼」では率先して3、4歳を引っ張っていました。
- ・ 歌は、元気よく大きな声で美しく歌うことができます。卒園児一人ひとりに対する「卒園のうた」は、長くてそれぞれ異なる歌ですが、皆よく覚えて歌っています。荒馬踊りを社会福祉大会や連合町内会20周年記念行事で披露したことも自信になっています。
- ・ 5歳児は、お昼寝から目覚めた年下の子どものお世話をします。着替えを手伝ったり、布団片付けの手伝いをしたり、一緒に遊んだり、お兄さんお姉さんの役割を果たしています。

## 2. 食事について

- ・ 子どもたちは、皆よく食べています。0歳児は保育者から抱いてもらってミルクを飲んでいきます。
- ・ 初めて保育園に来た子どもたちは、最初は野菜を残すことが多いのですが、今ではおいしそうに食べており、残す子どもは見かけませんでした。
- ・ 食育の一環として、園では、年齢ごとにお手伝いが決まっています。3歳児は、保育者と一緒に配膳します。4歳児は、野菜の皮むき等のお手伝いをし、当番はエプロンと帽子を着けます。5歳児は、当番がお米をといで炊飯器にかけ、ご飯を炊きます。
- ・ 0歳児は、食事に関心を持たせることから始まります。保育者が、子どもの前で配膳をすることもその一つです。
- ・ 当番は、配膳し終わると前に立ち、「ご用意はいいですか。いただきます」と言います。「ごちそうさまでした」はグループごとに言い、自分で食器を片付けます。
- ・ 子どもたちは、「食事は美味しい、お代わりもする」と答えました。どの子どもも落ち着いて食べていました。

## 3. 排泄について

- ・ 乳児のオムツ替えは、子どもの様子を見ながら、オムツ替え専用の敷物の上で取り替えています。
- ・ 園では、布オムツを使用しています。お尻を拭く布は、各部屋に備えてある保温器の中から取り出して使いますので、温かく気持ちよさそうです。
- ・ トイレトレーニングは、子どもの成長と父母の希望を考慮しながら、柔軟に取り組んでいます。子どもが関心を持ったら、おまるや便器に「座ってみる？」という声かけをしています。
- ・ 子どもの排泄については、その子の体調やその日の様子等も考えて、保育者間で連携をとって対応しています。また、トイレに排泄一覧表があり、参考にしています。
- ・ 3、4、5歳児は、自分で判断してトイレへ行っています。

## 4. 清潔・健康について

- ・ 子どもたちは裸足で過ごしています。戸外に出る時も靴下を履かない子が多く、素足のまま靴を履いています。室内へ入る時は、たらいに張られたお湯の中で足を洗い、手は石鹸をつけ泡を立てて、水道でよく洗い流しています。
- ・ 3、4、5歳児は、リレーや鬼ごっこの時には自ら上着を脱ぎ、衣服が汚れたら自分で着替えています。

## 5. いやな思いへの対応や権利を守ることにについて

- ・ 保育者は、子どもたちに対して、嫌なことやして欲しいことは、口で言うように指導しています。
- ・ 5歳児になると、けんかは自分たちで解決しようという気持ちが強くなっています。また、年少の子どもがけんかをしてめめていると、「どうしたの?」とそばに寄り、お兄さんのように話を聞いてあげます。その結果、けんかが収まることもよくあります。
- ・ 年少児の場合は、まだ口でうまく自分の気持ちを伝えることができない子が多いので、保育者は、けんかをしている子どもの気持ちをお互いに伝えてあげるなどしながら、うまく解決できるように援助しています。

## 6. 職員について

- ・ 保育者は、子どもたちの自由な遊びを保障し、見守りの姿勢でいます。子どもが自分でやってみたいということを経験させ、まだ無理かなということでも、子ども自身が納得しながら遊びに挑戦していくことを援助しています。
- ・ 職員は、自らが楽しんでこそ子どもにもその楽しさを伝えられると、積極的に歌や踊りや太鼓の技を習得しています。その意気込みが子どもにも自然と伝わり、子どもも一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しんでいます。

## まとめ

子どもたちは、日常的に異年齢児同士で、ごく自然に溶け合って遊んでいます。5歳児は、力強く頼もしささえ感じるほどの存在感があります。年下の子どもたちは、大きなお兄さん・お姉さんが大好きで、保育室に来てもらうのを楽しみにしています。

子どもたちは、保育者から援助されながら、発展性のある遊びを思いっきり楽しんでいます。荒馬踊りや合唱でも、一生懸命に集中して取り組んでいます。「エンジョイデイ」、「おたのしみバイキング」、春や秋に開催される「子どもまつり」、「卒園のうた」など様々な体験をしています。

乳児は、保育士に見守られ歩くことが上手になり、穏やかな雰囲気の中でゆったりと過ごしています。子どもたちは、自分がやりたいこと、やろうとすることを保育者が援助してくれますので、自信を持って遊んでいます。

## 事業者コメント

### 第三者評価の感想

今回、第三者評価を受けて一番良かった事は、日々の保育の在りようを職員全体でひとつひとつ再確認できたことでした。日常、あたり前になっていたことも、改めて文章化されたことで職員全体のものになったり、職員一人ひとりの意識がよりはっきりしたことは、園全体の財産になりました。第三者評価後、新年度を迎えるに当たって法人全体の学習会が今年も開かれたのですが、職員の学習会に望む意識が積極的になり、何が必要とされているのか、何を学ぶのか、それぞれの学習意欲に繋がっている事も成果のひとつでした。

利用者アンケートにおいては、利用者のみなさんからたいへん高い評価をいただきましたが、これは、日々のお父さんお母さんのお力添えがあつての事で、改めて感謝の気持ちと共にお父さんお母さんと一緒に喜び合いたい気持ちでいっぱいでした。これからも、子どもたちを囲んでいる大人たちがしっかり手をつないで、みんなで創りだしていく保育を大切に、子どもたちにとっても大人たちにとっても楽しい保育園となるよう努力して行きたいです。ありがとうございました。

(園長 林 和恵)

鳩の森の保育に携わって約 20 年。

無認可時代から築いてきた「共育て共育ち」の保育を伝えていくのに、組織が大きくなった分職員も増えて、ここ数年、“丁寧に、わかりやすく” 伝えるということをもっと意識しなくてはと感じていました。

第三者評価を受けるにあたって学習会を 4 回もちましたが、話しても話したりないくらい『保育』に関するあらゆることを全職員で考えあつたり、一人ひとりの意見をききながら、認識をひとつにしていく話し合いはなかなか大変なことでした。

全職員で話し合うことによって自分たちの保育がより具体的に理解できたり、「もっとこうしていくことがいいよね」と改善点をみんなで意識できたり、とても有意義な時間だったと思います。

子どもたちにとっても父母にとっても、保育者にとっても、より良い保育をつくる上で欠かせないのは、全員が共通認識していることだということを、うんと感じました。

新しい子どもたち、父母、職員を迎えた今、また心新たに胸にとめています。

(主任保育士 小林 茂美)

泣いたり笑ったり、眠ったり、飲んだり食べたり・・・赤ちゃんとの毎日は、腕がとどく距離のなかで「今日は、ご機嫌だな～」「どこか具合が悪いのかな?」「重くなったな～」「あれ、歯が生えてきた」と、時間ごとに、日ごとに変化を遂げます。そんな素敵な時間と毎日をお母さんお父さんに代わって過ごさせてもらっているのだから、よりよい保育をしたいと思っていました。しかし時間に追われ保育が見えず、後輩にも的確な指導ができず思い悩んでいました。そんなときに第三者評価の勉強の機会をもらって、「ひとりひとり」が今、何を求めているのか、それに見合った活動や生活は何なのか、話し合いがすすむにつれて、大事にしたい活動が見えてきました。

アンケートの結果は、心から嬉しいものでした。これからもこうした話し合いを重ね、お父さんお母さんの力を借りながら、子どもたちの未来が平和であるよう、よりよい保育をつくっていききたいと思います。

(0才児担任 看護師 安田 亜紀子)

第三者評価を受けるにあたり、全職員で確認し合えることが沢山ありました。“これってこういうことだよ”“私はこういう風に思っているけど”と、一つのことに対していろんな角度から見た思い、意見に改めて共感することができました。それは保育も同じことで、いろんな考え方、受け止め方、発信の仕方・・・に囲まれ、沢山の人の手を添えられ私たち大人も育っていく毎日。でも根本に持っている想いはみんな同じ!! だからこそ共に育ち共に育てられ昨日より今日がより良いものになっていくのだと思いました。私たちが毎日切磋琢磨して積み重ねているものが評価につながったことは嬉しく思い、また改めなくてはならないことが浮き彫りになったことで、更によりよいものにつなげていかなければと思いました。訪問調査は、わずかな時間の中でしたが、私たちの保育に対する思いが伝わったことは自信にもつながりました。その想いを長い時間共に過ごす子どもたち、保護者の方たちに、更なる向上心を持って伝えていきたいと思いました。

(2才児担任 保育士 高 雅瑛)